

## 国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)事務局長が東北地方太平洋沖地震津波の被災地を訪問しました(2015/3/13)

テーマ：被災地訪問

場所：仙台市、名取市、岩沼市

平成 27 年 3 月 13 日(金)、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のシャムシャド・アクタール事務局長と、キラパーティ・ラマクリシュナ東アジア・東北アジア所長が、東北地方太平洋沖地震津波の被災地を訪問しました。

今回は、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授と、寄附研究部門のサッパシー・アナワット准教授が、仙台市中野5丁目津波避難タワー、名取市閑上地区の日和山・メープル館、岩沼市千年希望の丘の順でご案内しました。

津波避難タワーについては仙台港の近くにある為、設計の際、津波の高さだけではなく工場や倉庫で発生する漂流物による被害の影響に関心を示していました。仙台市津波避難マップ及び津波避難タワー整備事業概要の資料がタワーにて無料で配布されている資料は、災害科学国際研究所の指導の下に作成されたもので、国連防災世界会議期間中に世界中の方々の目に触れることになりました。メープル館では津波当時地区内の津波浸水・被害の様子をご覧いただき、被災者の話しを聞くことが出来ました。千年希望の丘では、津波瓦礫の再利用のあり方に高い関心を示していました。

アクタール事務局長は、第3回国連防災世界会議で防災について議論する前に、実際の被災地を訪問することができて大変参考になったと、災害研に深く謝意を表明していました。



仙台市中野5丁目



名取市閑上地区の日和山  
(中央：アクタール事務局長)

文責：小野裕一（情報管理・社会連携部門）、サッパシー・アナワット（寄附研究部門）